

(別添2)

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所  
事業所名（長和町和田保育園）

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。

「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>□ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	<p>○保護者に配布する入園しおりに、長和町の教育大綱をはじめ、大綱を受けて保育園独自の理念や目標が揚げられ、職員と保護者の共通理解を図っています。</p> <p>○内容は地域を大切に、子どもの自主性を大切にした保育計画を立て、それぞれの目標に沿った活動を進める保育指針となっています。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	<p>○保育園の建物は、豊富な地元産の木を使い、心地よい造りになっています。少子化が進んでいることもあり、空き部屋を有意義に使い子どもたちが心豊かに生活できる空間になっています。</p> <p>○野外は、広々とした園庭が広がり、木々に囲まれた自然の中で、子どもたちの遊びがのびのびと展開される環境が整っています。</p> <p>○近くに小学校があり交流があり、連携が取り易くなっています。また近くには、B &amp; G（笹川日本財団）のプールもあり利用しています。</p> <p>○例年に比べ猛暑のため、冷房・扇風機などで風が上手に室内を回るような工夫がされています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>	<p>○子どものつぶやきを大切に、その思いを形にできるような活動に繋がっています。</p> <p>○その日の健康や心情などを家庭から聞き取り、職員でしっかり周知して、健康的な保育に心掛けています。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>○特に3歳未満児保育では、子ども一人ひとりの思いを大切に、保育士間の連携を取り合い、その時々の子どもの動きに沿った対応に心掛けています。</p> <p>○3歳以上児保育では、食事場面のマナーや姿勢の保持などを大切にしながら、保育士さんたちも自然に間に入り、楽しい雰囲気を作っています。</p> <p>○子どもの自主性を重んじ、子どもたちの個々のペースで、食後の片付け、歯磨き、お昼寝の準備まで、保育士たちが見守る中、穏やかに生活が流れています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>○コーナー遊びなど、遊びを継続できる設営場所が確保されており、子どもの思いや動きを大切に考えて、工夫、整備されています。</p> <p>○身体を使った遊びの後には、静かに給食をいただいて身体を休められる、メリハリのある生活リズムが展開できる環境が整っています。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</li> <li>□ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。</li> <li>□ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>□ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>□ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>○長和町内の0歳児保育は「ながと保育園」及び「和田保育園」で対応しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</li> <li>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。</li> <li>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○静かで落ち着いた和室が直ぐ隣に設置され、午前寝をされる1歳児については、常に見守られ、安心して休める環境が整っています。</p> <p>○保育室の関係で1歳児と2歳児と一緒に生活し、自然に異年齢の関わりが出来るようになっていきます。ただ今後、発達差がある中、一緒に保育する難しさに配慮し、より工夫された保育が期待されます。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○同年齢の子どもが少ないため、異年齢での活動が多くなり、担任間の連携を密に活動している様子が伺えます。活動内容によっては工夫や配慮がより必要になっています。年間計画から月案へ繋げ、綿密な狙いを掲げることで具体的な目標・計画が立案されていきます。子どもの育成を考え、より充実した保育内容の展開に期待がかかります。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			<p>⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</li> <li>■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</li> <li>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</li> <li>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</li> <li>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</li> <li>■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</li> <li>■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○町内には、ながと保育園に併設されている「子育て支援センター」が設置され、保健師と保育士が常駐して子育ての相談や、情報の提供もできる相談窓口が運営されています。無料で参加できるイベントなども計画され、地域に開かれた参加しやすい工夫もされています。</p> <p>○臨床心理士や支援コーディネーター、保健師、発達支援相談員などの専門家を配置し、巡回相談及び保育士への指導も行なうなど、必要な知識や情報を得ることができています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</li> <li>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</li> <li>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</li> <li>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</li> <li>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</li> <li>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</li> <li>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</li> </ul>	<p>○長時間保育は保育者が申請し、町が認定する保育時間を設けて対応しています。それぞれのお迎え時間まで、夕方のおやつを提供するなど、異年齢児との家庭的な雰囲気作り心掛けた保育になっています。</p> <p>○土曜日の保育は毎週希望を受け付けて、「ながと保育園」で利用可能となっています。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<p>○和田学校運営協議会が平成23年度に発足され、保育園、小学校、地域との連携を図っています。</p> <p>○就学前個別懇談会を年度初めの5月に、保護者、相談員、担任の三者で行ない、小学校以降の見通しが持てる、保護者にとって安心できる機会になっています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○毎月身体測定を実施し、連絡ノートに記載して各家庭に伝えています。家庭と保育園が子どもの成長を意識して、健全な成長を見守っている様子が伺えます。</p> <p>○朝の視診や連絡ノートなどで、保護者との連携を図っています。</p> <p>○入園時のしおりに感染症の疑いがある時の対策や、風邪症状時の登園の見極め方法などが、保護者に解りやすく記載されており、感染防止を保護者にも伝えています。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>□ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○内科健診と歯科検診は年に2回、尿検査は1回実施しています。家庭への結果のお知らせは、医師の指示のあったもの以外は「異常なし」とし、記入を統一しています。</p> <p>○入園時のしおりに早期発見の治療が大切であることを謳い、保護者に伝えています。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○食物アレルギーがある場合は受診して検査結果表と、医師の指示書を提出して頂き、栄養士、調理員、保育士で周知し対応しています。食事に関しては、除去食・代替食を一緒に考えています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>○「保育園職員としての心構え」の中に、「食育」を通して子ども達の健全な心と体の育成に努めるとあり、子どもの将来を見据えたものであって欲しいと記載されています。職員で周知し、取り組んでいる様子が伺えます。</p> <p>○おかずと汁物を保育士が給食調理室から運搬し、軽くて持ちやすい器に適量盛りつけて配膳しています。摂取量を踏まえ、個々の食事量を配慮した対応となっています。</p> <p>○保育士は食が進まない園児に、無理強いせずに応援し静かに見守り、最後まで食べきったところで称賛する素晴らしい対応が見られました。</p> <p>○毎月の献立表やレシピ、食育だよりを家庭に配布したり、布団の持ち帰り日にはその日の食事を展示するなど家庭との連携をとっています。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子ども食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○3歳未満児は、スプーンもフォークも保育園で準備して、完全給食になっています。3歳以上児はお弁当箱「アルマイト製」に、ご飯のみを入れて、温かい食事の提供に心がけています。</p> <p>○月に1度栄養士、調理員、園長、主任との献立会において、喫食状況やメニューの検討などがされ、おいしい給食の提供がされていました。</p> <p>○月・火・誕生会は主食も提供され、あったかご飯やパン・麺類などで、子どもたちの目を楽しませたり、流しそうめんや冷やし中華で季節感あふれるメニューを提供するなど、園児が楽しめる工夫がされています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>○連絡ノートや登園・帰園時の保護者とのやり取りの中で、毎日、保育園生活の情報共有を行なっています。</p> <p>○年間計画で園開放・参観日・希望参観等を設けて、保育内容を身近に感じて頂けるように保護者の理解を得ています。</p> <p>○様々な行事を計画して保護者と接する機会を増やしたり、懇談会を設けて子育ての不安・悩みなどをお聞きしたり、情報共有をし家庭との連携を図っています。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○園だより、食育だより、クラスだよりを配信し、情報を公開することで保護者が安心して頂ける保育に繋がっています。</p> <p>○保育園に対する要望や困り事の相談窓口として「受付担当者」は主任保育士、「解決責任者」は園長、「第三者委員」は町の主任児童委員で体制を整えています。</p> <p>○現在利用園児数は大幅に減ってきていますが、園内は広いスペースがあり、国基準の職員数が確保され恵まれた環境になっています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○人権に配慮した対応となっています。例えば、行動は1歳児、2歳児でもわかりやすく…呼び捨てにしない、人格を欠くような言葉使いをしない、傷つけるような言葉使いや馬鹿にするような言葉遣いをしない、繋いだその手に力を入れない等々、具体的に明記され、職員の心構えとして皆さんで周知、確認しています。</p> <p>○入園のしおりに保育者の姿勢や、「就学前キャッチフレーズ」と称し、躰についても具体的な説明文が解り易く明記され、卒園までに家庭と園で取り組み、育てたい項目をあげて取り組んでいます。</p> <p>○虐待防止のマニュアルについても整備もされ、それに沿った対応が図られています。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>□ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○保育園職員としての心構えとして、見通し・計画・ねらいを持ち、保育にあたり自己評価や他者からの評価を受けとめて、振り返りを大切に努めることを掲げられますが、アンケートではできていないとの回答もみられます。今後の取り組みに期待しています。</p>